

中齋塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 10 回講話

平成 26 年 11 月 8 日
於 湯島聖堂

教育は国の根幹

おはようございます。雨も降って若干寒さを感じています。だんだん天気が変わってくるなという気がいたします。

10 月 22 日に皇居参観を吉良評議員と関口幹事と一緒に行って参りました。天皇陛下と皇后陛下がちょうど車で前を通られるところにうまくぶつかりまして「心がけの良い人は違うね」なんて言いながら、気分良く参観をさせていただきました。二重橋という意味も知りませんでした。今回覚えました。

見ると向こうの橋と手前と 2 つあるから二重橋と説明いただきました。時代が移るにつれて説明が変わります。

10 月 27 日からモンゴルへ 4 泊 5 日 6 名で参りましたら、雪がちらちら降っておりました。モンゴルに行きまして感じたことは、酒井代表幹事が教育は国の根幹であると発表しことです。私もそうだと思います。

「国づくりは人づくりから」と渡邊五郎三郎先生は言っておられますが、私も同じことを強く感じました。

紹介書籍

『今、なぜ「大学改革」か？私立大学の戦略経営の必要性』水戸英則編著 丸善出版

二松学舎の理事長が書いた『今、なぜ大学改革か？私立大学の戦略経営の必要性』を、読んでみたらけっこう面白い。

なぜ面白いかと申しますと、企業経営の考え方を大学経営に取り入れている点です。最初のグラフが GDP と大学入学者の数をグラフで出していて、中身も辛辣な提言をオブラートに包んで書いていますから、けっこう読まれているなと思いました。今、時期もよいのでこれを回覧します。

それから比田井副理事長が一所懸命に進めていただいて、今回モンゴルに行かせていた

いただきましたが、モンゴルに学校をつくった方が書いた本をいただきましたので、これも閲覧いたします。

モンゴルの話

モンゴルに限らずそれぞれの国は、これからどんどん自給自足の体制で進むでしょう。その国が国としての力を発揮していくのには、人づくり教育にかかっていると思います。あとは人口がどれぐらいかというところが相当大きなウェイトを占めるだろうと感じました。

ちなみにモンゴルは2008年の資料で総人口287万人だそうです。とても少ないなと感じました。あの辺りでモンゴルより少ないのは、ブータンが人口69万7千人です。これも2008年の資料です。

周辺諸国では2013年14年の資料ですが、総人口はカンボジアが1513万人、ベトナムが9170万人、タイが6717万人でミャンマーが5141万人。モンゴル、ブータンは非常に人口が少ないと思います。

一生懸命に人づくりをして、教育に力を注がないと、その国の将来がないという感じがいたします。

今回モンゴルにお邪魔をしましたら、新モンゴル高等学校へ案内されました。その校長さんに通訳をしていただきましたが、教育にかける情熱はかなりのものだなと感じました。

その学校全体グループの理事長さん、それから学長さん、校長さんにお目にかかって話を聞いて、「どういう人材を作りたいのか」と確認をしたら「世界に通用する人材を作りたい」ということでした。

3日間講話をしましたが、初日が高校生、2日目が教員、3日目が大学生でした。同行いただいた方にも、それぞれ専門的な話をさせていただきました。

大学生に聞いた時、ふっと氣になったことがあり「今、世界に通用する実力を持っていると考えている方、手を挙げてください」と質問をしたら、2人手を挙げました。実力を持っていると自分で思っているんだなと感じました。

もう1つの質問は、「世界に通用する実力を身につけたいと思っている方、手を挙げて」と言ったら、ほとんどの方が手を挙げました。かなり情熱が溢れているという感じがしましたので氣合が入ってしまいました。だいぶ上げたり下げたり、その方達のレベルに合わせて色々なことをしましたら、帰り際に一番熱心だった高等学校の校長さんが他の学生さんと同じように、頭を下げていました。教師の人達は、この日本の心・考え方を取り入れたいというような話をしていると私に残してくれました。

比田井副理事長は、このまま進むと向こうへ定住しなくてはいけないんじゃないかと思いました。

恒例の質問

- ・ここ 1 週間ぐらいの感覚で考えてください。嘘は比較的つかなかったと思う方
これは順調。ありがとうございます。
- ・11 月に入ってから健康法をずっと実施していますという方
何度も申し上げますが、健康法を夜寝る時に、今日は何もしなかったなと思っている場合は、呼吸法だけをやればいいです。息をゆっくり吐いてゆっくり吸う。
- ・先月も含めて明日を過去形でイメージ出来た方。1 日でも 1 回でもいいです。
今年 1 年終わる時に、明日を過去形でイメージ出来なかったなと思ったら、何でもいいから明日のことを過去形でイメージしてみてください。それが習慣になると未来が開けてくると思います。

基本哲学「知足」

だんだん年末が近づいていますので「足るを知る」を、もう一度考え直してみてください。

教育の原点とは、幸せの追求ではないかと考えます。そうすると幸せとは、いったい何かということになります。

「幸せは、いったい何なのか」となると、宗教をどうしても考えざるをえない。

宗教を考えれば、仏教は・キリスト教は・イスラム教は、と考えることになります。儒教は宗教ではないけれども宗教のような感じで考えたときに、幸せとは何かを追求する。

仏教の場合は「生老病死」、苦から逃れる。苦しみから逃れるための方法を考えて仏教が成立をした経緯があります。

そうすると苦しみから抜ける一歩先に「足るを知る」仏教の中でも「足るを知る」を説明しています。「足るを知る」とは、いったい何か。やっぱり自分の心の中で幸せだなと思う心を養う気持ちだと思います。

「足るを知る」は、今、あるがままを感謝をする。そういう心が出来れば良いなと思うが、なかなか難しい。

でも寝る時に、今日 1 日良かったなと思って眠れば、これは幸せですね。今、瞬間、瞬間、幸せだねと思えば、これは「足るを知る」という人生を生きていると考えて良いでしょう。ですから時々「足るを知る」とは、自分自身が現時点で満足しているか、良かったな、ほっとしているなと思う気持ちを一緒に味わう。そこが肝心だと思います。

まるで「足るを知る」を考えないで 1 日過ぎてしまったのではなくて、夜寝る時に「今日は良かったな、足るを知る日だったな」と、思えるかどうかの積み重ねが肝心だと思っています。

テーマ 「教育」

教育について申し上げますと、知識・見識・胆識、今回はそれを非常に強く感じています。モンゴルに参りましたので、モンゴルの話を交ぜながら申し上げます。

今、頭の中で渦を巻いているのは渡邊五郎三郎先生のインタビューです。

日本が戦争に負けて戦争の後始末をしたい。戦争の後始末をするのに若い者の手でやりたい。ついては我々でやろうと末次一郎氏と渡邊五郎三郎先生が協力し合って日本健青会を立ち上げました。

それで行動を開始し、一連の活動の中で自分達の手で外国の教育、発展に役に立つような動きをしようではないかとなり、青年海外協力隊を立ち上げたそうです。

最初、役所に行って相談をしたら「今時の若者が外国に行って、その国のために応援をするなんて、そんなことありえない」と軽く一蹴されてしまったと言います。それでも末次一郎氏は或る大学に出かけて、数百人いた学生達に講演をしましたら、37 名が「外国に行きその国の発展に寄与いたします」と手を挙げてくれた。それが嬉しくて青年海外協力隊を発足させる原動力になったとの事です。

私が凄いなと思ったのは、ある国のトップが日本に来日しました。その中で「今回、日本にお邪魔したのは、日本の国の若者が、我が国に来て、身を粉にして泥まみれになり、先頭に立って農業の技術指導をしてくれました。普通は上から目線で指導しますけれども、日本の若者達は我々と一緒になってくれました。この氣風、考え方、行動を、我が国の国風として育てていきたい。このような考え方、行動を我が国にもたらしてくれた日本の青年達に感謝の意をこめて天皇陛下にお礼を申し上げたい」と、後日談がありました。青年海外協力隊がスタートした頃の話です。

やっぱりこれは教育が原点にあると思います。大学で 37 名の若者が手を挙げるところからスタートをしたのだと感じます。

その話を頭の中におきながら、今回モンゴルに参りました。新モンゴル高等学校の創設者は日本に留学をしていました。日本に留学をしたその人は、家族で日本に来てアルバイトを 3 つやりながら大学に通った。大変な苦学をして日本の大学を卒業し、大学院にもいき在学中に、その人はどうしてもモンゴル国に日本式の教育を是非導入したい。まずは高等学校を立ち上げたいという夢を持って進めていました。そして日本の方々に協力、応援をしていただきスタートすることが出来た。開校して 14 年経ったそうです。

その新モンゴル高等学校の中で世界に通用する人間になりたい、という気持ちの学生が誕生して、通算で 150 名ほどが日本に留学をし、その中で優秀な者は日本の有名大学に進んだと聞きました。

「国づくりは人づくり」と、自分の一生の仕事は教育にあると考えて、実行している人はここにもいると痛感しました。

私は日本に帰国してから、モンゴルの学校から二松学舎に入学した人はいないか確認を試みたら、おりました。モンゴルから日本の国にやって来て、二松学舎大学に国際関係の勉強をして卒業し、こういうことをやっていると、二松学舎が出した本に載っていました。

ちなみにモンゴルから日本に来る方法が 5 つあるそうです。

1 つは私費留学でして、自分のお金で来る。日本語学校に行き、それから大学に入るコースが私費留学。

2 番目が、受験に合格した生徒を日本政府が推薦をして入学する。文科省が 14 万円の助成をするそうです。

3 番目が、モンゴル政府が推薦し、受験に合格したら留学をするスタイルです。助成金の金額は分かりませんが、モンゴル政府が助成をする。

4 番目は、現地で受験をして受かったら入学の手続きを取るという形。

最近日本の受験業界は相当苦しくなっていて、受験業界の経営はきつい。予備校の代々木ゼミナールという受験業界の勇が閉鎖まではいかないが、相当に規模を縮小しました。

そういう観点からも、各国へ良質の留学生を取り込みたいと、業界の人達が出かけているようです。

これは大学の担当者の話しですが、たぶんウランバートルにも日本の受験業界の業者が出かけて行き、受験希望の学生を集めて受験をさせ合格したら日本に送る動きをすでにしているだろうと推測をしていました。

5 番目が相撲留学だそうです。モンゴルの中学校を卒業する時に、日本の高校に入学をする。最近、有名になった逸ノ城は鳥取の高校へ入学をして、そこの相撲部に入り大相撲に入った。

二松学舎の国際交流室長と学長と話をしてしましたら、モンゴルの人は非常にまじめで熱心であると良い評価をしていました。二松学舎は大きい大学ではないのですが、良質な大学生、留学生を確保したい中で話を進めているのが、ミャンマーの大学と提携し、お互い交換留学をしたいということです。その他にドイツ・フランス・イタリアの大学と提携交渉をしているということですから、いつの間にそういう動きをし始めたのかと思います。

大学側として苦労していると思うことは、留学生と日本の学生と一緒に旅行させて融和させたり、一所懸命に気を配っていると話していました。日本の学生が期待薄になってき

ましたから、大学側も生き残るために必死です。国内外でやはり御縁のある教育機関は生き残ってもらいたいと思います。

ちなみにここで私共が勉強を進めている・深めている、この中齋塾フォーラムも、こういう考え方で学びを深めていることは、確実に周りの方々に影響を与え、自分自身にも影響を与え、民間における教育啓蒙機関に本当になりつつあるという実感を持っています。

教育の違う面一ひらめき

世の中に役立つ業績を残した、いわゆる天才といわれる人達は、小さい頃は勉強が得意ではなかったようです。

学生時代あまり勉強しなかった人は、何か素晴らしいことを起こす可能性があります。小さい頃に勉強した人は、当然良いことですけれども、あまりしなかった人は、より人生の後半にひらめきが生まれ、良いきっかけが出るかもしれない。

今、申し上げたのは、ひらめきの話しです。

最近の本を読んで思うことは、よい小説を書く人や素晴らしい小説を書く人。そういう人達の共通項は、何かひとつの考えに取りつかれて、朝から晩まで寝ている間もずっと考え抜くという共通項があるようです。

作家の司馬遼太郎がアイデアを練る時に、2時間ほどの散歩コースがあるそうです。その中でいきつけの喫茶店でずっと新しいアイデアを練る。散歩をする時、迷子になるようなコースを選び、その喫茶店に行ってものを考えた。ちなみに司馬遼太郎が新しい本を書くときは、神保町にトラックで必要な書籍を掻き集めて買う。買うこと自体は誰でも買えるとは思いますが、読むのは大変です。読んで、それを頭の中に残し一気に書くという作業をしたようです。

ちなみに河井継之介の本を、私が書く時に新潟へ行って取材をしました。司馬遼太郎が書いた『峠』という小説、その取材時の状況を聞きました。3日間そのお寺に行き、僅か3日の取材をお寺の和尚さんの奥さんにしたそうです。資料は大阪の方から送って貰ったと聞きました。司馬遼太郎は頭の中にインプットされたものをずっと考え抜き、ふっとひらめきが出て良い本が書けるのだと思います。

木内信胤先生の場合は、本を書こうと決めたら、一所懸命に考え抜き目次を書いたら1冊書いたのと同じだと、よく言われていました。

もう1つ変わったところで、日清食品の安藤百福会長がチキンラーメンを売り込みに外国のあるスーパーへ出かけて行きましたら、相手の方は側にあった紙コップに麺を入れポットからお湯を入れ、かき混ぜてフォークで食べ始めた。スナック菓子の感じで食べられるのを見てこれだと思い、それからずっと頭の中は取りつかればなしで、帰ってきてから何かよい入れ物はないかと思って探していたら、魚屋の店先で容器を見つけて、これだと強く思ったといえます。

色々な情報を頭の中に取り入れるには、自分が欲しいものを強く思っていなければ、な

かなか、ひらめきが出ません。

教育は、このひらめきは作ってくれませんが、環境は作ることが出来ると思います。だから常に勉強したい学びたい情報が欲しいと、考えて考え抜いていると、ひらめきが生まれるものです。

考えて考え抜いた結果、知識がある日、化けて見識のもとになり胆識のもとになるという感じがします。

教育は人間が成長を発展していくための大きな基本になる。学ぶということは人間にとって絶対必要だと思います。

論語の視点

子路第十三

【五】子曰く、詩三百を誦するも、之に授くるに政を以てして達せず、四方に使用して専対すること能わずんば、多しと雖も亦奚を以て為さん。

詩経三百を暗唱することが出来ても、現実の政治の世界を本当に理解していないので、能力が開花しない。そういう人間を外国へ遣わして外交に専念させても、きちんと相手とやり取りすることが出来なければ、いくら詩を三百暗記していても役には立たない。だから自分の身についたものは、ちゃんと使いこなさなければいけないと考えて下さい。

外交で人と応対をする時に教養がある人と見られるのは、この詩三百を使いこなせなければいけません。

使いこなす前に「まず暗記をしましょう」ということが結構あります。ここで学んでおられる方は、論語の中でこれは良いと思う章句をどこか、どうぞ2つ3つ暗記してみてください。前は1つだけと言っていましたが、10周年記念の頃には論語の章句を1つではなく、2つ3つと覚えていただくと有難い。尚且つそれを使いこなす。2つ3つ持っていれば十分だと思います。

今、日本の外交は安倍政権で輝きを放っています。外国へ出かけて行き、日本の文化、そして主張を出しているのです、これは良いなと思います。その時に必要なことは、日本の心を言葉で伝えられることだと考えています。

私がモンゴルへ出かけて行った時に、そこの学生さんや教師の方々に世界に通用する人材になるために、くぐり抜けるべき関門は最低限二つあると話してきました。

1つは、モンゴルの国の歴史と文化を、自分の言葉で表現出来なければいけません。

2つ目は、健康。健は心の健康で、康は肉体の健康。これは欠くべからざるものだと話し

ました。

ちなみにモンゴルで「日本の文化、心を伝えるために詩吟があるけれども、知っていますか」と聞くと「知らないが、日本の文化を体験してみたい」と言うので、詩吟をしました。三島中洲「学を論ず」の詩吟をしましたらビックリしていました。文化を伝えるには、そういう何か目に見えるもの、形に残るようなものが必要であろうと感じます。

【六】子曰く、其の身し正ただしければ、令れいせずとも行おこなわる。其の身そ正ただしからざれば、令れいすと雖いも従したがわず。

孔子が言うには、自分自身が正しく過ごし賄賂・汚職に縁がなければ、いちいち命令しなくても周りの人は従う。ただし賄賂を取って汚職をしていれば、命令しても誰も聞かないし従わない。

一転して最近の中国でみますと、習近平さんの身は正しいのでしょうか。ここで言ってもそんなには、他所へは広がらないからいいでしょう。

中国の要人は賄賂・汚職が当たり前だと思っていますから、命令したって中国が動くわけじゃないじゃないかと思えます。

自分が関係がある組織、団体で不正が行われているようであれば、不正を行っている人達の話、命令など聞くわけがないと感じます。

今日の論語は 2 つですけれども、現実の世界で役に立つ話しが相当詰まっていると思います。

時事評論

新聞その他を見たときに、時代の潮流を見抜くことが基本です。時代の流れ、時代の潮流を見抜くことが出来るかどうかは、新聞・ネットの読み方であると考えます。

これは今日の読売新聞ですが、「イスラム国の脅威に対して、どう対抗すべきかということが読売国際会議の中で話しあわれた」と。

イスラム国は怖い。イスラム国への志願兵の募集が行われているけれども、教育されてそれぞれの国に帰ったら、テロ組織になるから脅威だということが書かれている。

ぼやかして書いているなど思うのは「エボラ出血熱の感染に関して」という記事がありましたが、この中で前防衛大臣の発言で「国内ではエボラ熱の患者を隔離する病院がいくつかあるけれども、ウイルスを分析、実験する施設が不足している」と書いてあります。

これは嘘ですね。不足ではなく無いです。設備はあるけれども、現実に機能できない状況だから無いと言ったほうが正しいのに不足していると書く。誤解させる記事になっている。

今日の読売新聞のトップで書いてあるのが、まあ面白い文章だなと思いました。日中首脳会談の合意文章です。

「尖閣諸島などの東シナ海に緊張状態について異なる見解を有していると認識し…」

なぜ、こう分かりにくい言葉を使うのかと思いますが、尖閣諸島は自分のものだとお互いが言いあっているという事をお互いが承知しています。まあ外交とはこんなものなのかとも思います。

もう1つ、「歴史を直視し未来に向かう精神に従い政治的困難を克服することで…」ここまでは良い文章ですね。「若干の民主統治」何が若干だと思いますが、お互いにちょっとお前のいうことを聞いてやるよ、ほんの少しだよという意味ですから、けったいな日本語だなと思います。

ただこのポイントは、危機管理メカニズムを構築し不測の事態の発生を回避する。中国がやりすぎたら日本が間違えて偶発的に何か対応して、向こうも偶発で戦争にならないように、戦争になる寸前でお互い手を引きましょうねという事では合意したよということだから、何と新聞は分かりにくい文章を書くんだろうと思いました。

それから被災地、労災が6割増加。3・11の後に労災が増えて、被災した3県は全国的に突出しているが、その理由は人手不足。

作業員が不慣れで防災をまねいている。震災前の10年に比べて62%増加していたことが分かったという書き方です。被災3県で労災が6割増えてと書いてあるけれども、これは仕事だと一所懸命に人手を掻き集めているけれども、素人ばかり掻き集めているから事故が急増しているという記事です。同じ日本語なのに何故、言い直されなければいけないのかと思います。

地銀の勢力図に影響。「肥後銀行と鹿児島銀行統合へ」と書いてあるが、これは両行ともいずれも県内トップの中央銀行であって異例と書いてありますが、これは3ヶ月ほど前に金融庁の幹部が通達で「地方銀行は統合させていかなければ、いけないという方向に進めて…」と、東洋経済がスッパ抜いていました。

群馬県でいけば、群馬銀行が地方のトップなので、そこの会長と会ったときに「東洋経済の記事があるけれども、金融庁の通達で進められますか」と聞きましたら、「あれはアドバルーンですから、あまり気にしないでください。我々はあまり気にしておりません」みたいなことを言っていました。着々と進んでいると感じました。

新聞で気になったのは、今日の社説。「首相の靖国参拝はさけるべきだが、他国の圧力を受けて参拝しない約束をする手合いのものではない。この問題の日中関係全体に影響させな

い形で処理をする方向になったことは適切である」

一見もっともらしいことを書くのですが、よく読むと上から目線で、自分は手を汚さない。いつの間にマスコミはこんなに偉くなったのかと思います。

日本の国の動き方、日本政府のやり方、あなた方のやっていることは一応、良いとも思う適切だという。何かマスコミは間違えています。

朝日新聞も謝らなくてはいけない時に、謝らない。目線が上過ぎだと感じました。新聞を読む時には、気をつけなければいけないと言いつづけていますが、時代の潮流をみなければいけない。

時代の潮流をみると、イスラム国やロシアなどを見ると、やはり根底にあるキーワードは領土奪還です。領土奪還で今日の新聞にちらっと書いてあったのが 5 月にシンガポールでアジア安全保障会が開かれたその時、中国の代表が「南シナ海は 2 千年前中国のものだった」と発言している記事が出ています。2 千年前中国のものだったと言ったら、世界中どうなるのと思いました。

だから領土奪還の考え方が、ロシア、中国、イスラム国あちこちで広がっている。これは怖いことです。時代の潮流に乗っていると私は読みます。

それから先程の地銀の統合とか、外交政策。日本の外交政策がおかしいとかメディアが上から目線だとか、日本がどんどん崩壊してきている。

時代の潮流は、ものの考え方、行動すべて各分野にわたって崩れ始めているということが新聞からまたはネットから読み取れます。

前から自給自足も勧めています、口に入れるもの食料を見直しが必要だろうと感じています。WHO が日本に対して勧告をしている。例えばサラダ油、マーガリン、フライドチキン、今の我々が食べて口にしてしているものの油の見分けが、やっぱり必要だろうなと思います。WHO の勧告も無視した食品が横行しているということで、注意して見ておく必要があります。

千支の話

来年は、乙未（いつび きのとひつじ）。乙という字は、白川静先生、加藤常賢先生の辞書を引けば草木が屈曲しているという書き方をしている。小刀があつて真中が窪んでいる。先端が尖っている。先端が尖っているもので切ったりはねたりする。その道具を私はかなり意識してきました。これは、余分なもの、おかしなことを払いのけるという意味がかなり強い。こっちは、色んな物がはびこっている。悪いもの、良いもの。だから来年は相当大掛かりに色々はびこったものをバサバサと削り取ったり、刈り取ったりしなければいけない年回りだと思っています。

私が氣になってならないのは、日本の国がこれだけおかしくなっていますから、どん底まで行かなきゃいけないのが、まだ行かない。国債が破裂すると思っても、破裂していない。日銀がまた違ったおかしな手を打ったし、だから破裂しないで来年はいくとすれば、もやもやのままで1年間に過ぎる危険性がある。こうした時の落ち込み方といたら、凄まじいものになるだろうという氣がしています。ですから、来年は相当変なもののはびこる。それを払い除けるための政治の動きが、沢山あると思います。

60年前は、力道山が空手チョップで活躍していた時代、それから三種の神器が出てくる神武景氣でした。そういうことで景氣が良くなって、ちょっとおかしいなと思っても、突走してしまった。これはもう一度よく考えて、来年の新年号に干支のことを載せようと思います。

終了にいたします。有難うございました。